



安全だより

神奈川県安全赤十字奉仕団

平成 27 年 10 月発行
第 107 号

◆平成二七年度の上半期の事業について

委員長 赤澤精二

今年の上半期は私ごとになってしまい大変恐縮ですが、メンバーへの派遣が多くを占めてしまいました。約10日間の派遣の報告記事を書かせていただきましたが、まだまだ書き足りないくらい様々な経験をさせていただきました。

今年の課題は、増加する事業を滞りなく実施する責任を果たすことや、新たに始めたホームページを有効活用できるようにすることが、特に重要であると考えています。

ここところ増えている「健康安全プログラム」と「ここ安」は団員の活動の幅が広がり活動機会も増やすことができ、非常に有効なことだと考えています。

「健康安全プログラム」は、主に平日の活動になってしまい仕事の都合で参加できない方も多いとは思いますが、年に1回くらい有休を取って参加してみ

るのも面白いのではないのでしょうか。小・中学校の校長先生はじめ関係者の熱心なお話を聞いたり、生徒たちの活気あふれる受講態度を見ると、私たちの方が励まされ力を与えられるような思いがします。受講者は多いのですが、指導する方も多いので個々の負担が少なく、日頃話ができない方々とも話ができるので気楽に参加できます。また、「ここ安」は、昼間の他、夜の講習もあるので仕事の後、ちよつと無理すると参加できる方も増えるのではないのでしょうか。様々な事業者の方と接することで雑学が増えたり、新たな発見があったり、指導することより、ある意味指導されているような錯覚を覚え楽しい気分になれることがあります。

今年の上半期を振り返ると事業は滞りなく進んでおりますが、イベントに参加したドラゴンボートと横浜市の防災フェアでは、参加団員が少ない日もありました。また、他の事業でも同じ人に無理して参加し



てもらっていることでもあります。団員のみならず、お忙しい日々ではあると存じますが、可能な限り、また、少し無理するなど、事業にご協力をお願いいたします。



◆日本赤十字

ミャンマー派遣報告

委員長 赤澤精二

成田から全日空の直通便でヤンゴンに到着、街はいたるところで高層ビルの建築工事があり、道路はそこかしこに渋滞があり、クラクシヨンがロックミュージックのように鳴り響いていて活気のある街です。しかし、ヤンゴンから70キロ離れた今回の講習が開催されているバゴーは、高層ビルも渋滞も殆ど無く、そのギャップは大きなものでした。

講習に参加する前に本社職員がヤンゴン市内及びバゴーの案内をしていただきました。市内に多く寺院があり驚かされるのと同時に、住民の方々が公園で楽しんでるような雰囲気もあり、生活の一部に溶け込んでいるようでした。バゴーでは、たまたま、ミスバゴーコンテスト期間で寺院でのPRに遭遇しました。若くて美しい人ばかりで思わず写真を撮ってしまいました。

今回の講習の受講者は、資格取得者の再講習でもあることから、実技の多くはケーススタディ方式で行われ、現場でそれぞ



バゴー内の寺院



バゴーの早朝の街



ファイアーマンズ

れの受講者がどのように考え、どのように処置をするかを重要視しているようでした。
また、三角巾の包帯法では2枚使用することなく、目や肩を1枚で行う方法や倒れている傷病者をフアイヤーマンズで搬送する方法など興味深いものがありました。
日本赤十字の処置方法はこれまででも伝えられていることから指導者はほとんど理解しているようでしたが、受講者のみなさん

は始めて見ることであり、真剣な眼差しをしていました。私たちが行った実技で指導者もまだ知らなかったのが開き三角巾からのたたみ方、毛布の簡単なたたみ方そしてロープワークでした。
これらは講師をはじめ皆さんが一生懸命覚えようと練習してくれました。
毛布のたたみ方を披露したところ講師から「あなたは家で主婦をしているのか」と冗談とも本気ともとれる質問がありました。
今回の派遣は、昨年行かれた吉原さんの情報もあり、既に述べたように技術的なことは



開き三角巾からのたたみ方



講習スタッフ



受講生と撮影

かなり講師に伝わっているようなので、指導・助言もさることながら交流を主な目的にしたと思います。皆さんも受講者の皆さんも大変好意的に迎えていただき私達派遣者も民族衣装の「ロンドン」を購入して講習に臨んだことで一体感を感じることができました。
今回の派遣ではミャンマーの社会情勢などから救急法の違いを体感し、ミャンマーの救急関係者と触れ合うことができ、非常に有意義なものとなりました。
最後にこの派遣に携わっていただいた皆様、誠にありがとうございました。

◆横浜防災フェア2015に参加して

横浜防災フェアのブースは、二十六か所(1)横浜市アマチュア無線非常通信協力会、(2)気象庁横浜地方気象台、(3)神奈川県警、(4)デベロ、(5)スタンプラリー受付、(6)国土交通省横浜国道事務所、(7)日本赤十字社神奈川県支部、(8)サイバルカード、(9)災害食グランプリ、(10)写光レンタル販売、(11)国土交通省京浜河川事務所、(12)子供ラジオ工務教室、(13)ラジオ日本、(14)休憩コーナー、(15)宮城県石巻市希望の環プロジェクト、(16)防災推奨品コーナー(防災安全協会)、(17)米軍日本管区司令部消防隊、(18)横浜市、(19)NTT東日本、(20)生協の宅配パルシステム、(21)神奈川県LPガス協会、(22)神奈川県石油商業組合、(23)横浜市消防局救護課、(24)自衛隊神奈川地方協力本部、(25)第三管区海上保安部、(26)横浜市消防団です。我が神奈川県安全赤十字奉仕団は、7番のブースの日本赤十字社神奈川県支部で心肺蘇生法とAEDのデモを実施しました。

支部のブースは、神奈川県救護赤十字奉仕団も一緒に、救護奉は子供用赤十字スタップ衣装を着ての救急車で撮影を実施しておりました。

子供に人気のあるブースは、珍しい展示車両である米軍日本管区司令部

消防隊の消防車、自衛隊神奈川地方協力本部のバイクとジープ、横浜市消防局のはしご車、神奈川県警の震災対策用活動車(UNIMOG)、日本赤十字社神奈川県支部の救急車などでした。自衛隊は、撮影された写真がその後SNSで拡散して自衛隊のPR効果をねらったか幼児用の衣装まで用意しており、さすがとしか言いようがありません。赤十字社の撮影用の衣装も幼児から対応できるようにすべきと感じた次第です。

さて、我々の心肺蘇生とAEDの体験コーナーでは、参加者と見学者を合わせて連日二百名近い方が訪れて頂きました。

私は初日のみの参加で、日頃クレーターの効いた事務所で生活のせい、暑さで座っているだけでも体力が奪われ、熱中症にかからないよう気をつけながらの参加でした。

やはり人を助ける為には日ごろから暑さ寒さに強い身体づくりが必要で体力維持に努めなければと感じた1日でした。



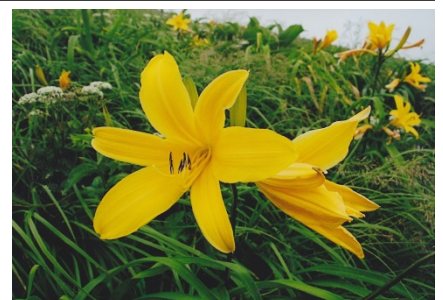
日本百名山の100山目登頂 飯豊山

◆夢を叶える



四十代も終わりの頃、職場の仲間に金時山登山に誘われた。緑の山々、空の青さ、美味しい空気、頂上から見る周囲の山々の稜線、全てが美しく清々しい気分になり、それまで学校の役員の関係から続けていたママさんバレーを辞めて山歩きをすることにしました。

山と言っても神奈川近郊の低山歩き、又はハイキング程度、世の中、中高年の登山ブームが起き始めていた時です。NHKの趣味の百科で「中高年のための登山学」が放送されていたので本を買い登山用具を揃え、それなりの登山者になったつもり。



飯豊山の麓で咲くニッコウキスゲ

仲間は五人程、その中で私が一番の年長「五十才になる前に富士山に登りたい!!!」と希望を出し私の山登りが始まった。

初めての山小屋、今ではとても考えられないほどの、イワシを串に差したような状態、両脇に隣の人の足があり、寝返りなど出来ない。夕方7時頃から仮眠を取るように、言われてもこんな時間に寝たことない!

一睡も出来ないうちに午前0時、山小屋を出発、七月の終わりだったので登山者はいっぱい、ヘッドランプをつけてアリの行列の様、前の人の足が上がった

ら自分の足を置く、八号目、九号目辺りまで行くと、通路脇に高山病？と思われる人が座り込んで居る。睡眠不足でフラフラになりながらも天空を仰ぐと星が手に届きそうな高さにある。

何とこの素晴らしさ、寒さに震えながら頂上でご来光を待ち皆で万歳、日本の山に登れたと自信をつけた。それから二十年山歩きを始めた頃、私達のグループではとても無理と諦めていた「日本百名山」六十山を過ぎた頃から、もしかしたら登れるかもと、欲が出て頑張り始めたが、年齢を重ねて、体力は衰える一方、奥深い山や、ちょっと危険な山ばかり残ってしまい、大変だったが何とか目標を達成できた。素晴らしいリーダー、素敵な山仲間、理解のある家族や職場の皆さん、大勢の人達の支えがあったからこそ、夢を叶える事が出来たと思っっている。

「百の頂に百の喜びあり」と書いたのは深田久弥さんだが、私が山に登って得た物は、「百の頂に百の感謝あり」です。これからも健康に注意して、季節の花を愛でながらのんびりと楽しく山歩きをしたい。



スイスのブライトホルン 4164m 登頂前

企画部だより

年に数回皆様に活動アンケートをお送りする際、かなり先の日程までのご回答をお願いすることが多々あります。しかしながら先の予定がまだご不明の方も多いと思われます。

そこで、今後返信はがきの回答欄の記載方法を以下の通りにさせていただきます。

・記載方法

「○」 活動に参加。不参加になるなど変更等があれば担当者へ連絡。

「×」 活動に不参加。変更等があれば、担当者に連絡。

「△」 回答時に不明・予定が未定。予定が決まり次第、個別に設定した活動回答期限までに○か×かを担当者に連絡する。

・説明

アンケート回答時に先の予定が不明・未定の方は、「△」や「無記入」等を返信はがきに記入しているケースが多々見受けられました。

今回、各事業の回答期限を設定し、返信はがきでの回答時に不明・予定が未定の場合は「△」を記入していただき、予定がはっきりした後、各活動に個別に設定した回答期限までに皆様からご連絡していただくようにいたしました。

このような事で、参加して頂ける団員が増える事を期待しています。

団員皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- ・救急法競技会の集計時に安全奉で全身包帯を披露することになりました。詳しい事はこれから決まりますが、まずは10月25日の勉強会で、全身包帯を行う予定です。

お時間の都合がつく方は是非ご参加ください。

企画部：村野、吉原

義援金について

近年、様々な災害が頻発していますが、今年もネパールの大地震や茨城県、宮城県の豪雨による災害がありました。

安全奉仕団においては微力ながら被災者への支援を行いたいと思います。

つきましては、義援金を拠出していただける団員の方は、11月30日までに団役員に直接渡すか、団費納入口座に振り込みをお願いいたします。納入手数料は各自負担ください。また、納入口座が不明の団員は団役員に連絡してください。

安全赤十字奉仕団
委員長 赤澤精二

編集後記

今後、イベント等に参加された方に原稿をお願いする事があると思いますが、是非ご協力を宜しくお願い致します。

発行責任者 赤澤精二
広報部長 阿部浩幸
広報部 永野善則